



パワーアップした
ぎょうだ“夢”まつりに誰もが大満足

11月23日、古代蓮の里で「2013ぎょうだ“夢”まつり」が行われました。

食・農業・環境の祭典として開催されたこのイベントに、市内外から3万8,000人が訪れました。昨年に引き続きゼリーフライ総選挙、B級ご当地グルメ大会、農業祭、環境フェスタなどが行われた他、県立松山女子高等学校書道部が華麗なパフォーマンスを披露するなど、より一層充実した内容となりました。今回初開催となったゼリーフライ大食い大会では、出場した選手らに観客から大きな声援が送られ、会場は大盛り上がり。

見応え、食べ応えがあるイベントに、来場者は満足している様子でした。



いにしへの物語を語る

11月23日、産業文化会館で「浅野温子よみ語り 行田公演」が行われました。

この公演は、古くから語り継がれてきた日本独自の物語を現代的に脚色し、女優・浅野温子さんが語るものです。今回は、阿村礼子さんの脚本「神々のものがたり」シリーズから、コノハナサクヤヒメとイワナガヒメの生涯を優しく切なく、時に激しく語りました。

感情豊かに全身全霊で表現する浅野さん。その姿に、会場を訪れた誰もが圧倒されるとともに、改めて日本古来の物語の素晴らしさを堪能していました。



気軽に生の音楽と触れ合える場として

11月26日、行田音楽家協会による市役所ロビーコンサートが行われました。

同協会は、クラシックを中心に「落葉松」など6曲を披露しました。マリンバやピアノの音色にのせて響き渡る歌声に、来庁者はうっとりとした様子。気軽に生の音楽と触れ合える場として、誰もがリラックスして優雅な時間を過ごしていました。





忍城おもてなし甲冑隊が「第1回県おもてなし大賞」特別賞を受賞

11月28日、浦和コルソで「第1回県おもてなし大賞」の表彰式が行われ、このたび特別賞を受賞した忍城おもてなし甲冑隊が出席しました。

「県おもてなし大賞」とは、埼玉県が観光客らに対して心のこもったおもてなしをしている企業や団体、個人を表彰するものです。忍城おもてなし甲冑隊は、忍城址などでの演舞披露や記念撮影を行うなど「独自のおもてなし」で、観光客に行田でのひとときを楽しんでもらえるように取り組んだことが評価されました。これからも甲冑隊は、さらに磨きをかけた「おもてなし」で行田を訪れる観光客の皆さんをお迎えます。



思いが込められたたすきをつなぐ

11月24日、総合公園自由広場および周回コースで「第57回浮き城のまち駅伝大会」が開催され、3,090メートルコースに20チーム、1,150メートルコースに65チームが参加しました。

仲間の思いが込められたたすきを次の選手につなぐと、最後まで諦めずに力走する選手たち。ゴールした後は、全員で健闘をたたえ合い、さらなる絆を深めていました。



大豆を身近に感じて

12月11日、南小学校の5年生を対象に、行田市民大学同窓会1期生教育グループの皆さんによるオリジナル食育紙芝居「大豆の話」の披露が行われました。

この紙芝居は、健康に良いとされる大豆について見直し、日々の食事に取り入れてもらおうと制作されたもの。歴史や栄養素など、大豆に関する知識を盛り込んだストーリーに、子供たちからは「絵も楽しくて分かりやすかった」「豆腐が食べたくなった」と大好評。また、行田在来青大豆を実際に手にして眺めるなど、子供たちにとって大豆を身近に感じる事ができた貴重な体験となりました。



平和の尊さを再認識

11月30日、中央公民館第1学習室で、広島県から北川建次さんを招き、被爆体験者講演会が行われました。

10歳のときに広島で被爆した体験を、日本各地で語り伝えている北川さん。参加者は、当時の様子を描いた絵や写真をもとに語られたその悲惨さを、沈痛な面持ちで聞き入っていました。

講演会終了後、図書館脇の植え込みに被爆アオギリの苗木を植樹。被爆しても翌年に新芽を付け、広島の人々に生きる希望を与えたアオギリの子孫を植えたことで、平和への意識をさらに高めることができました。

